

南陽コンペティション

2/3 米

大賞が決定

「いぐね?〔IGN〕」

南陽市が実施する事業「夢はぐくむ故郷(まち)南陽」コンペティションの公開審査会が一日、南陽市赤湯のえくほプラザで開催され、二十代の青年五グループのプレゼンテーションや、事例発表が行われた。審査の結果、「いぐね?〔IGN〕」が大賞に選ばれ、賞金百万円が贈られた。

同事業は、市が若者による主体的なまちづくりを支援しようとする青年教育推進事業として実施。昨年六月からまちづくりに

つながるユニークで実践的な若い人の夢やアイデアを持った二十代の参加グループを募った。各四人から二十四人で結成された参加グループは、昨年七月から約半年

に渡ってガイダンスや全五回のワークショップを受講し、まちづくりの学習と実践を積んできた。審査会には市や審査員、参加グループ、一般など約百人が参加。片桐隆嗣東北芸術工科大学教授・子ども芸術教育研究センター長、堀川敬子NPO

の底力をつける実行委員会「山形まちづくり学校」・「観光カリスマ」工藤順一事務所秘書・奥まちづくりサポーター、三ヶ山岩男南陽市教育長・南陽市青年教育推進事業実行委員会会長ら三人が審査員として審査発表・講評

を行った。

大賞に決定したチーム「いぐね?〔IGN〕」は、同市出身の男女五人で結成。「新しい青年団のカタチ」をテーマに、寸劇なども取り入れながら若者が地域のイベントなどに参加するイベントの仕組み作りを提案した。

プレゼンテーションでは、「市に若者がいないわけではない、イベントに参加していない状態だ」と思う。企画の実行性を上げるためにワークショップや実践の支援を重ね、若い人の考えを活かすシステムを作り上げたいと

考えた」などと発表した。



南陽市の若者がまちづくりにつながる夢やアイデアの企画を発表した公開審査会